



Monthly Guide

2022年
2月号

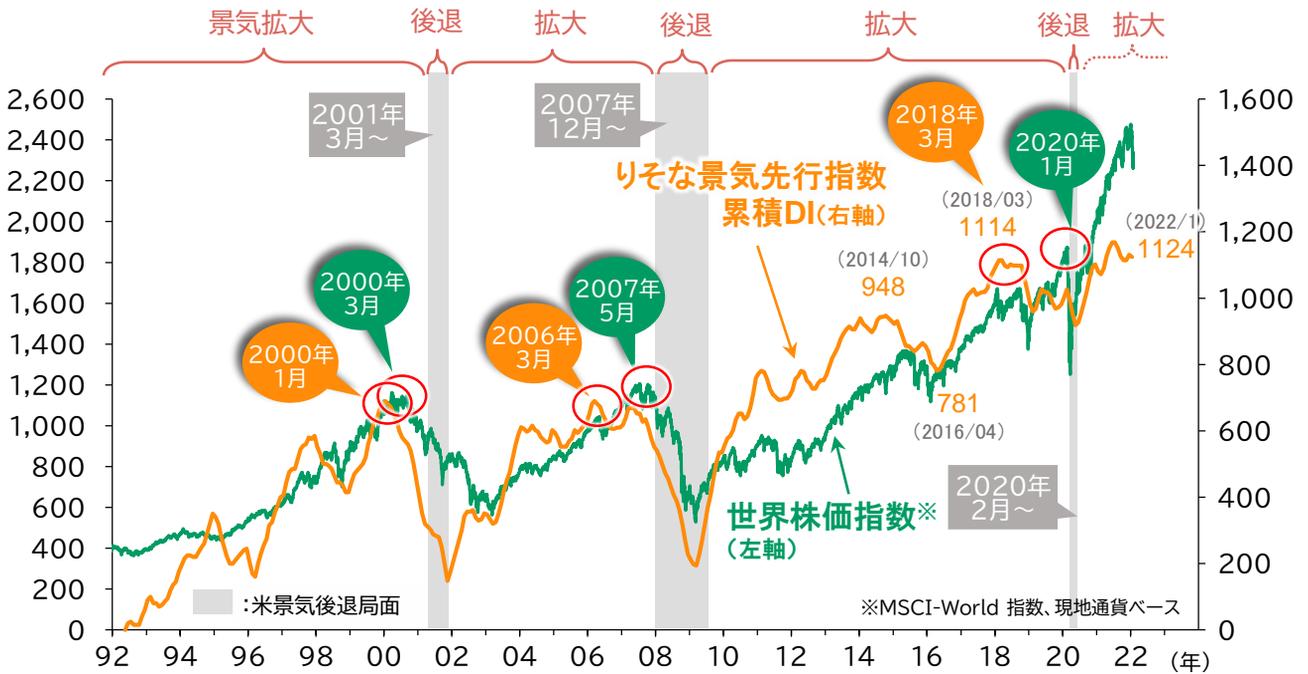
りそなグループのYouTube
で、最新のマーケット情報を
配信しております！



投資環境

世界経済拡大と低金利環境が併存し株式等の成長資産選好続く

IMF(国際通貨基金)は最新の経済見通しで、世界全体では2022年+4.4%、2023年+3.8%と高めの経済成長が続くと予測しています。米国が金融政策の正常化に舵を切り始めましたが、グローバルな金融環境は依然緩和的です。世界景気の拡大と歴史的な低金利環境を背景に、株式などの成長資産が選好され易い状態が続く見通しです。



●りそな景気先行指数累積DIは各月のりそな景気先行指数から50を引いた数値を累積したものです(1992年5月=0)。※りそな景気先行指数の詳細は3ページをご参照ください。

🏦 今月の金融環境



米国

FRBは1月会合で3月の利上げ実施を示唆。資産買入れを3月上旬に終え、利上げ開始後に保有資産の圧縮に着手するとの方針を示しました。パウエル議長は「インフレ見通しは悪化」と言及、タカ派姿勢を強調しました。



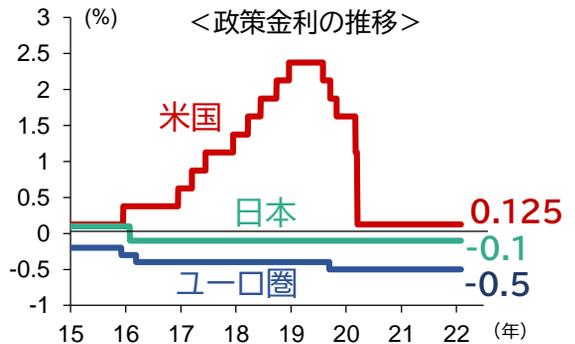
欧州

ECBは3月以降は資産買入れ額を縮小も、利上げ直前まで買入れを継続する方針です。ラガルド総裁は高インフレは一過性とし、年内利上げ観測をけん制しました。



日本

日銀は1月会合で物価見通しを引き上げ、見通しのリスク評価を「下振れリスクが大きい」から「上下にバランス」に上方修正しました。黒田総裁は衆議院予算委員会で、足元のコスト高の企業収益への悪影響に懸念を示しました。

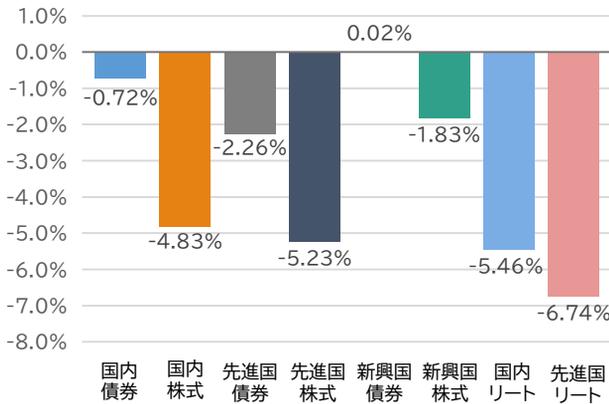


※米国:FFレート誘導金利(中央値) ※ユーロ圏:中銀預金金利
※日本:日銀当座預金金利(マイナス金利は日銀当座預金の一部に適用)

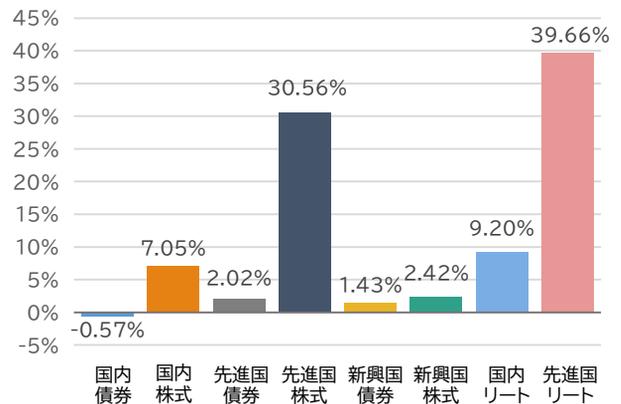
【出所】 Haver analytics、ブルームバーグの公表データ等に基づき、りそなアセットマネジメントが作成

1月末基準 各資産別 月間騰落率と振り返り(円換算ベース)

過去1ヵ月



過去1年間



※ブルームバーグの公表データに基づき、りそなアセットマネジメントが作成。※国内債券：NOMURA-BPI総合、国内株式：東証株価指数(TOPIX、配当込み)、先進国債券：FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)、先進国株式：MSCI-KOKUSAI指数(配当込み、円ベース)、新興国債券：JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド(円換算ベース)、新興国株式：MSCIエマージング・マーケット指数(配当込み、円換算ベース)、国内リート：東証REIT指数(配当込み)、先進国リート：S&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、円ベース)

国内債券

海外金利高と日銀の政策修正観測から10年国債利回りはマイナス金利を導入した2016年1年以来となる0.18%近辺まで上昇しました。日銀は「経済・物価情勢の展望」で、2022年度・23年度の物価見通しを1.1%に上方修正しました。見通しに対するリスク評価についても前回の「下振れリスクが大きい」から「上下にバランスしている」に引き上げられました。

先進国債券

米10年国債利回りは、利上げ前倒しを織り込み1.8%台後半まで上昇しました。FOMC(米連邦公開市場委員会)では3月会合での利上げが事実上予告された上、資産圧縮の基本方針が公表され早期実施の可能性が示唆されました。欧州では、ECB(欧州中央銀行)の緩和策縮小観測を背景に独10年国債利回りは2019年5月以来のプラス圏浮上となりました。

新興国債券

新興国債券は、わずかにプラスとなりました。国別では、ウクライナ情勢を巡る不透明感からロシアの下げが目立ちました。追加利上げで通貨高となった南アフリカ、チリ、連続利下げを実施した中国がプラス寄与となりました。

国内リート

東証リート指数は、世界的なリスクオフと感染再拡大に伴う経済正常化の遅れへの懸念から、約1年ぶりの水準まで下落しました。用途別で見ても、全ての指数でマイナスとなりました。日銀によるリート購入は当月も見送られました。

国内株式

米国株の調整に加え、国内で新型コロナ感染が急増したことを背景に売りが先行し、日経平均株価は一時1年ぶりに2万7000円を割り込む場面がありました。金利上昇を受け世界的にテクノロジー株が売られた影響から、電気機器、精密機器など成長株の比重が高いセクターの下落が目立ちました。日銀は昨年10月以来となるETF買い入れを実施しました。

先進国株式

米国では、FRBによる政策正常化加速への警戒感から一昨年来の相場を牽引してきたテクノロジー株などを中心に利益を確定する売りが拡がりました。成長株の比率が高いナスダック総合指数は昨年11月に付けた最高値から一時▲16.8%となる一方、NYダウは年初に付けた最高値から一時▲7.2%、S&P500指数は同▲9.8%にとどまりました。

新興国株式

新興国株式は先進国株安に連れて下落しました。国別ではブラジル、南アフリカ、サウジアラビアなど資源国の上昇が目立ちました。指数全体への寄与が大きい中国、韓国、台湾、インドなどアジア各国は揃ってマイナス寄与となりました。

先進国リート

先進国リート指数は、長期金利の上昇が嫌気され全地域がマイナスとなりました。国別では指数のウエイトが高い米国の下落が目立ちました。セクター別では、昨年までの上昇を牽引してきた産業施設、特殊産業の下落が目立ちました。

🔍 今月の注目指標 先進国リート 成長性と高い利回りは引き続き魅力

1月は株式やリートなど昨年好パフォーマンスだった資産のマイナスが目立ちました。中でも、2021年は+51.3%(円建て)と8資産の中でトップパフォーマンスの先進国リートは、月間で▲6.7%(同)と、主要8資産中で最も大きなマイナスで終わっています。

先進国リート指数の構成比は米国が7割近くを占めており、米国リートのパフォーマンスに左右される傾向にあります。その米国リート市場の構成をみると、データセンターや貸し倉庫、物流関連等の産業施設など、コロナ禍でも業績見通しが安定し、成長性が高いセクターに特化したリートが4割弱を占めます(昨年末時点)。また、好利回り資産と位置づけられるリートは、長期金利の上昇が逆風となりますが、1月末時点で米国リートの利回りは3.1%と、国債利回り(現在1.8%程度)などに比べ依然魅力的な水準にあります。

FRB(連邦準備制度理事会)が金融政策の正常化に乗り出す中、先進国リート指数の変動率が高まる可能性があります。相対的に高い利回り水準と成長性の両面から、魅力的な投資先の一つである点は変わらないものと考えます。



📊 リそな景気先行指数

りそな景気先行DI 構成系列	2021年												2022年
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
	29.2	41.7	66.7	87.5	75.0	66.7	50.0	33.3	25.0	37.5	50.0	66.7	42.9
① ISM製造業・新規受注指数	63.5	66.4	66.9	64.3	66.3	66.4	65.0	65.5	64.4	60.6	61.4	61.0	57.9
② NFIB(中小企業景況感)・景気楽観度指数	95.0	95.8	98.2	99.8	99.6	102.5	99.7	100.1	99.1	98.2	98.4	98.9	
③ ミシガン消費者センチメント・期待指数	74.0	70.7	79.7	82.7	78.8	83.5	79.0	65.1	68.1	67.9	63.5	68.3	64.1
④ 非国防資本財受注(除く航空機)(百万ドル)	72,386	72,150	73,318	75,315	75,742	76,530	76,736	77,102	78,190	78,819	78,973	79,183	
⑤ 新規失業保険申請件数(千人)	862	805	724	579	426	394	394	352	341	287	235	202	
⑥ NAHB住宅市場指数	83.0	84.0	82.0	83.0	83.0	81.0	80.0	75.0	76.0	80.0	83.0	84.0	83.0
⑦ シア・ロンドン・ワイヤ・サバイ・商工ローン貸出態度	5.5	5.5	5.5	▲15.1	▲15.1	▲15.1	▲32.4	▲32.4	▲32.4	▲18.2	▲18.2	▲18.2	▲14.5
⑧ 独IfO景況感指数 産業・商業(期待指数)	96.1	100.0	103.9	103.0	103.5	103.2	101.8	100.1	98.8	97.4	97.0	96.5	98.2
⑨ 中国 財新Markit 製造業PMI	51.5	50.9	50.6	51.9	52.0	51.3	50.3	49.2	50.0	50.6	49.9	50.9	49.1
⑩ 中国 マネーサプライ M2(前年比、%)	9.4	10.1	9.4	8.1	8.3	8.6	8.3	8.2	8.3	8.7	8.5	9.0	
⑪ 日本 中小企業売上見通しDI	▲15.1	▲17.8	▲3.3	8.2	7.4	8.8	5.9	5.2	▲7.5	▲7.4	▲3.2	6.9	4.3
⑫ 日本 実質輸出指数	113.4	109.8	113.3	116.0	115.6	116.5	118.0	113.7	106.2	105.7	115.3	113.9	

〔注〕各指標を3ヶ月前と比較し、改善の場合は ■、悪化の場合は ■、横ばいは無色。

※2022年2月7日現在

りそな景気先行指数とは？

●景気に対して一般に先行して動くと考えられる内外の景気指標のうち、説明力の高さや速報性、投資家の認知度から12の指標を選定。それぞれの項目が3ヶ月前と比較して改善を示す指標の割合を算出した当社独自の指数です。●この指数が50を上回れば(12系列中7系列以上が改善していれば)景気は拡張局面、50を下回れば後退局面と捉え、景気転換点の判定等に利用しています。

【出所】 Haver analytics、ブルームバーグの公表データ等に基づき、りそなアセットマネジメントが作成

<当資料に関するご注意事項>

○当資料はりそなアセットマネジメント株式会社が作成した投資環境等に関する情報提供資料であり、販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。また、りそなアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。○当資料の作成にあたり当社は情報の正確性等について細心の注意を払っておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示されている当社の見通し、予測、予想、意見等(以下、見通し等)は、それぞれ作成時点のものであり、将来予告なしに変更されることがあります。また当社の見通し等は、将来の景気や証券価格等の動きを保証するものではありません。取引時期などの最終決定は、お客さま自身の判断でなされるようお願いいたします。○当資料に関わる一切の権利はりそなアセットマネジメント株式会社に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを固くお断りします。

<ファンドの設定・運用> ■りそなアセットマネジメント 商号等/りそなアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2858号 加入協会/一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会